

R6年度 美術館評価調書

旭川美術館

A 優れた作品の収集と適切な保管

【基本的運営方針】

旭川を中心とした道北地域にゆかりのあるすぐれた作品及び木を素材とした造形作品を系統的に収集、保存する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
優れたコレクションの形成	<ul style="list-style-type: none"> ○第4期北海道立美術館等作品収蔵計画に基づき収集に取り組むものとし、作家や所蔵家と積極的に交流し、作品収集の機会を増やす。 ○文献調査や地域での情報収集に努め、収集計画の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇画家高橋三加子氏へのインタビューや個展調査等を通じて作家と交流を深めるとともに、所蔵家からの情報収集にも努めた。 ◇油彩1件、工芸1件を受贈した。
所蔵作品の適切な保管	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的に作品の状態を把握し、作品の保存状況に合わせた適切な温度や湿度管理、虫害予防対策など収蔵庫の環境整備を行う。 ○修復候補作品一覧を完成させるとともに、長期的な修復計画の作成を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇委託業者と連携し、適切な温湿度を保つとともに、文化財害虫調査の場所を増やし館内全域の実態把握に努めた。 ◇所蔵品展での展示や館外への作品貸出に際して作品状態の点検・記録により所蔵作品の現状把握に努め、修復・保管方法改善候補作品一覧を完成させた。 ◇人間国宝黒田辰秋の作品1点を修復した。
コレクションの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館のほか様々な分野の施設との連携により、所蔵作品の活用機会を増やすとともに変化に富んだ展示方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇旭川市科学館と連携し、それぞれの施設で相互の資料を展示した。 ◇当館利用者や旭川市民等を対象に、所蔵作品のうち思い入れのある作品を様々な媒体により募集し、これらを「みんなの推し☆コレクション」として展覧した。展示作品に対する応募者のコメントを併せて掲示するほか、展示できなかった作品はパワーポイントにより映像で紹介するなど特色ある展覧会づくりに努めた。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]		
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価	
			設定の考え方								成果・課題
優れたコレクションの形成	収集方針に基づく収集活動 [定性]	-	-	-	-	-	①	b	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・収集方針「道北の美術」「木の造形」に基づく作品収蔵を実現した。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫が飽和状態に近く、作品保管スペースが極めて不足。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【優れたコレクションの形成】 <ul style="list-style-type: none"> ○収集計画に基づき今後もコレクションの充実を努める。 ○計画的な収蔵によって限られたスペースを最大限活用するとともに、本庁関係課と連携しスペースの拡充を検討する。 【所蔵作品の適切な保管】 <ul style="list-style-type: none"> ○施設の日常点検を継続し、特に耐用年数を超過した設備に注意を払う。 ○作品の構造や重量、材質の強度を踏まえ、安全で適切な取扱いを行う。 ○IPM(総合的有害生物管理)に基づく保存環境の整備、特に文化財害虫の発生が多い場所について改善に取り組む。 ○修復・保管方法改善候補作品一覧に基づき、修復を具体的に検討する。 【コレクションの効果的な活用】 <ul style="list-style-type: none"> ○オンラインアート教室において所蔵作品の活用を図る。 ○展示回数が少ない作品も展示する展覧会を企画する。
所蔵作品の適切な保管	所蔵品データベースの整備率	100.0%	100.0%	全所蔵作品	100.0%	100.0%	①	a	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財害虫について、館内全域の発生状況を把握した。 ・修復・保管方法改善候補作品を把握した。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化による設備等の故障が頻発。 ・文化財害虫が多く発生する場所への重点的な対処。 		
	適切な保管環境の維持と所蔵作品の計画的な修復 [定性]	-	-	-	-	-	①				
コレクションの効果的な活用	コレクションの活用の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①	b	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・従来とは異なる視点による企画、新たな連携先の開拓により活用の幅を広げた。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・展示回数が少ないコレクションを道民に見てもらおう工夫。 		

R6年度 美術館評価調書

B 多彩で特色ある展示活動の充実

旭川美術館

【基本的運営方針】

当館の所蔵品及び国内外のすぐれた作品をさまざまな角度から紹介する展示会を企画・実施する。また、他の道立美術館との連携のもとにその所蔵品を紹介する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
多様なニーズに応える展示会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ○木の造形作品及び道北地方や北海道にゆかりのある作家・作品について調査研究し、その研究結果に基づいた企画展を開催するとともに、所蔵する木彫作品を紹介するなど、その魅力の普及に取り組む。 ○多様なニーズに対応するため、様々な時代や地域の優れた作品を対象とした展示会を開催する。 ○当館に愛着を持っていただくよう道民参画型の展示活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇所蔵作品について調査研究し、特別展に関連した所蔵品展を企画した。抽象作品や写実作品などバラエティ豊かな作品を各所蔵作品展で展示し、また、木彫作家・板津邦夫の展示も行った。 ◇幕末から現代に至る日本洋画の展示や本道を代表する木彫作家・藤戸竹喜の作品、さらには現代美術など幅広い分野の芸術作品を対象とした特別展を開催した。 ◇当館利用者や旭川市民等を対象に、所蔵作品のうち思い入れのある作品を様々な媒体により募集し、これらを「みんなの推し☆コレクション」として展覧した。
観覧者拡充のための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○若年層が美術館に興味を持つよう展示会に関連した子ども向けワークショップを実施する。 ○SNSを活用し、幅広い世代への広報活動に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇小学生低学年を対象とした絵本作りや小学中・高学年を対象とした木工体験、小学生以上を対象とした陶芸のワークショップ、幅広い年齢を対象とした錯覚体験ワークショップを実施した。 ◇広報強化のためにInstagramの投稿件数を令和5年度の111件から220件に増やした。
館外における鑑賞機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い地域における当館所蔵品の鑑賞機会を増やすため、積極的に他美術館への所蔵品の貸出を行う。 ○オンラインアート教室のさらなる魅力化をはじめ、多くの学校が参加できる工夫を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇京都市国立近代美術館等へ黒田辰秋《神代禪彫文飾櫛》を貸し出した。 ◇オンラインアート教室では、展示会の内容と連携したテーマを設定した。また、小中学校の学習指導要領に沿った内容にするなど学校が授業に活用しやすい工夫した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]				評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価			総合評価
			設定の考え方					成果・課題			
多様なニーズに応える展示会の開催	展示会の観覧者数（※展示会毎の内訳は下表のとおり）	47,343人	40,979人	年間計画による	39,727人	96.9%	②	b	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 ・昨年度よりも観覧者の満足度を高めた。 【課題】 ・多様なニーズに応えることと、収集方針と結びついた当館独自の企画とのバランスをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【多様なニーズに応える展示会の開催】 ○引き続き、様々な巡回展の情報収集を行うとともに、収集方針と結びついた美術への調査・研究を深め、多様な展示会を開催する。 【観覧者拡充のための工夫】 ○幅広い年齢層に向けた事業を企画・実施する。 ○SNSが来館を促す効果を高めるように、投稿内容等について研究し工夫する。 【館外における鑑賞機会の提供】 ○所蔵作品の借用希望があった場合は、引き続き、可能な限り協力する。 ○オンラインアート教室について、参加校とは教育目標を共有するなど、事前準備を協力し合いながら丁寧に行う。 	
	観覧者の満足度	88.9%	98.4%	過去5年間の最高値	89.9%	91.4%	②				
観覧者拡充のための工夫	観覧者に占めるリピーターの割合	61.3%	67.2%	過去5年間の平均値	73.2%	108.9%	①	a	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 ・昨年度より観覧者に占める児童生徒の割合を高めた。 ・Instagramのフォロワー数が1年間に172人から255人となり、40%以上増加した。 【課題】 ・幅広い年齢層が楽しめるような事業の企画・実施。 ・SNSのフォロワー数増加が、来館者数増加に結びついていない。 		
	観覧者に占める児童生徒の割合	5.1%	7.2%	年間計画による	9.1%	125.0%	①				
	展示の企画構成やPR等の工夫【定性】	-	-	-	-	-	①				
館外における鑑賞機会の提供	館外における展示活動の状況【定性】	-	-	-	-	-	①	b	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 ・所蔵品を道外で見てもらえたとともに、研究者による新知見を得た。 ・オンラインアート教室への希望校が昨年度2校から4校に増加。 【課題】 ・オンラインアート教室参加校との間で、必要な事前準備について共有不足があった。 		

【展示会開催状況】

区分	展示会名	計 画				実 績				特記事項
		会期	開催日数	観覧者見込数(うち児童生徒)	1日当たり観覧者数	会期	開催日数	観覧者数(うち児童生徒)	1日当たり観覧者数	
常設展	夢みるアート	R6.4.27~6.23	50	2,500 (200)	50	R6.4.27~6.23	50	2,804 (340)	57	
	草木と花を描く	R6.7.6~9.1	50	2,500 (200)	50	R6.7.6~9.1	50	4,243 (571)	85	
	旭美の写実	R6.9.14~11.17	57	2,850 (228)	50	R6.9.14~11.17	57	5,094 (619)	90	
	追悼 彫刻家・板津邦夫	R6.12.3~R7.3.16	76	3,800 (305)	50	R6.12.3~R7.3.16	76	2,816 (222)	38	
	常設展計	-	233	11,650 (933)	-	-	233	14,957 (1,752)	65	
特別展	アートの中の朝・昼・夜	R6.4.27~6.23	50	3,800 (280)	76	R6.4.27~6.23	50	3,199 (195)	64	
	みんなの推し☆コレクション	R6.12.3~12.25	20	600 (44)	30	R6.12.3~25	20	724 (28)	37	
	オブ・アート展	R7.1.11~3.16	56	5,152 (438)	92	R7.1.11~3.16	56	3,904 (392)	70	
	日本の洋画150年の輝き	R6.7.6~9.1	50	7,750 (1,019)	155	R6.7.6~9.1	50	7,918 (442)	159	
	藤戸竹喜の世界展	R6.9.14~11.17	57	12,027 (218)	211	R6.9.14~11.17	57	9,025 (776)	159	
特別展計	-	233	29,329 (1,999)	-	-	233	24,770 (1,833)	107		
合 計	-	466	40,979 (2,932)	-	-	466	39,727 (3,585)	171		

R6年度 美術館評価調書

旭川美術館

C 学習の場と情報提供の充実

【基本的運営方針】

講演会、講座、解説、教員のための鑑賞研修、子ども向け事業等の教育普及活動及び美術に関する情報提供等の事業を推進し、地域の美術文化の振興に取り組む。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
教育普及活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○教育効果を高めるため、展覧会と関連したプログラムを実施する。 ○幅広い世代への普及に取り組み、特に高齢者向け教育普及プログラムを研究・企画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「アートのなかの朝・昼・夜」展において時間の移ろいをテーマとした絵本作り、「オブ・アート展」において錯覚体験ワークショップや美術史講座など展覧会内容と関連付けたプログラムを企画・実施した。 ◇旭川市立大学と協力し、高齢者も含めた成人向けの対話型鑑賞について研究を進めた。
情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○展覧会と関連した書籍の配架方法を工夫するなど図書コーナーの充実を図る。 ○様々な広報媒体を活用し、情報発信に努める。 ○投稿回数を増やすなど、SNSを積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇図書コーナーと隣接するロビーにおいて作家の制作風景を収めた映像を上映するなど、図書コーナーを広く来館者に利用してもらえるよう工夫した。 ◇各展覧会の広報に際しては、地元ケーブルテレビやラジオ、地方紙など様々な広報媒体を活用した。 ◇広報強化のためにInstagramの投稿件数を令和5年度の111件から220件に増やした。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価	総合評価		
			設定の考え方								成果・課題
教育普及活動の充実	教育普及プログラムの実施件数	77件	85件	過去5年間の最高値	64件	72.9%	④	c	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会に関連した事業の企画・実施により、展示内容への興味関心を高めることができた。 ・成人向け対話型鑑賞の方法について検討を深めた。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・事業への参加人数を増やす。 ・対話型鑑賞の今後の実施には、当館側の体制が未整備。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【教育普及活動の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ○展覧会に関連した事業の企画・実施にあたり、対象となる年齢層の幅の拡張を検討する。 ○成人向け対話型鑑賞の実施に向けた体制づくりを検討する。 【情報提供の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ○コレクション・データベースの更新と公開を行う。 ○展覧会紹介動画「北海道リモート・ミュージアム」の新規コンテンツを制作し、インターネット上に公開する。 ○当館のSNSのさらなる周知に取り組むとともに、継続的に投稿する。 ○より多くのメディアが取り上げてくれるように、記者への働きかけなどに工夫する。 ○引き続き、図書コーナーの充実に取り組む。
	教育普及プログラムの参加者数	2,124人	2,653人	過去5年間の最高値	1,847人	66.2%	④				
	教育普及プログラムの企画・実施状況 [定性]	-	-	-	-	-	①				
情報提供の充実	ARS、図書コーナーの利用件数	7,054件	7,054件	過去5年間の最高値	8,219件	116.5%	①	b	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・図書コーナーの利用者数が、過去5年間で最大となった。 ・Instagramのフォロワー数が1年間で172人から255人となり、40%以上増加した。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・記事に取り上げてくれるメディアが一部に限られている。 	B	
	利用しやすい図書・資料コーナーの整備	-	-	-	-	-	①				
	HPアクセス件数	237,439件	276,000件	過去5年間の最高値	223,017件	80.8%	③				
	SNSの投稿数	111件	120件	過去5年間の最高値	220件	183.3%	①				
	リモートミュージアムの公開件数	1件	1件	年間計画による	1件	100.0%	①				
	情報発信の工夫改善 [定性]	-	-	-	-	-	①				

R6年度 美術館評価調書

D 活動の基礎となる調査・研究の推進

旭川美術館

【基本的運営方針】

主として「道北の美術」及び「木の造形作品」についての調査研究を行う。また、美術館活動についての研究を行う。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
調査・研究の推進	○館報の内容充実や図書資料の充実に取り組む。 ○学芸員の資質向上のため、研修機会の拡充に努める。 ○所蔵作品の研究結果を生かした展覧会を実施する。	◇館報「氷華」に所蔵作家インタビューや所蔵作品の修復について記事を掲載するなど、内容の充実に取り組んだ。また、所蔵作家に係る図書等の二次資料の充実に努めた。 ◇対話型鑑賞に係る研修や絵本作家の講演等に積極的に参加した。学芸員1名が、道立近代美術館で作品取扱と展示の研修を受けた。 ◇特別展のための借用作品との関連性から所蔵作品の制作背景を改めて調べ、特別展に参考出品するなど、新たな視点から所蔵作家に関する調査を行った。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価(※定量指標がないため最高評価はb)		総合評価
			設定の考え方	成果・課題						
調査・研究の推進	学芸員による調査・研究の報告や発表の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①	b 【成果】 ・新たな視点から所蔵作家・作品に関する知見を深めた。 ・研修によって学芸員の知見を広げた。 【課題】 ・締切が明確な展覧会や事業を優先せざるを得ないため、調査・研究や研修が後回しになりがちである。	B	【調査・研究の推進】 ○諸業務の合理化、研究テーマから展覧会を企画、図書館資料の計画的な収集等を視野に入れ、調査・研究の比重増加に取り組む。 ○研修の情報収集と旅費の計画的な執行等に工夫し、学芸員の研修機会の拡充に取り組む。 ○館報により学芸員の研究の成果を発表する。
	学芸員の研修等の状況 [定性]	-	-	-	-	①				

R6年度 美術館評価調査

E 多様な主体との連携・協力による地域の活力向上

旭川美術館

【基本的運営方針】

地域の他の美術館、博物館等との連携を図り、地域文化の活性化に取り組む。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
多様な機関との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ○市民実行委員会やマスコミ等との展覧会や関連事業の開催について、内容及び広報の充実に取り組む。 ○来館者サービスをより一層向上させるため、美術館ボランティアとの連携をさらに深める。 ○旭川リンク・リンク・ミュージアムなど、地域の美術館や博物館などを結ぶ連携制度等を継続する。 ○年間を通じ「旭川市中央図書館・北海道立旭川美術館コラボレーション2024」を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇実行委員会展に際しては、お茶会やトークイベントなど特色ある関連事業を実施し、様々な広報媒体による情報発信するとともに、展覧会テーマに関連する機関（川村カトアイヌ記念館、旭川市科学館）と連携し、広報活動を行った。 ◇旭川美術館を舞台としたBS12トゥエルビによる旅番組制作に協力した。 ◇ボランティアが運営する売店の照明を改善するなど環境整備を行い、また、普段から積極的に声かけをし情報共有を図るほか、随時、事業担当者とボランティアが打合せを行った。 ◇旭川リンク・リンク・ミュージアムやリピーター割引などの割引制度を継続的に継続するとともに、HP掲載や受付での普及活動を行った。 ◇旭川市中央図書館との連携事業の一環として、図書館司書を講師に迎えたワークショップを行った。また、おといねっつ美術工芸高校の協力を得て、「写真」という共通テーマのもと双方で作品を展示し、各機関の魅力をより発信できる事業を実施した。
学校等の教育機関との連携・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○令和5年度から実施しているおといねっつ美術工芸高校卒業制作発表における講評に加え、旭川市立図書館との連携の一環として、同校生徒の作品を図書館へ展示する際の展示方法の助言など美術活動への支援を行う。 ○オンラインアート教室の内容の充実を図るとともに、多くの学校が参加できる工夫を検討する。 ○キャンパス・パートナーシップの対象となる学校に向け制度を改めて周知する。 ○展覧会ごとに教員を対象とした指導者研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇おといねっつ美術工芸高校の卒業制作発表講評や図書館での作品展示への助言等を行い、美術活動の支援を行った。 ◇旭川工業高校の生徒を講師に招き、子ども対象の木エワークショップを実施した。 ◇オンラインアート教室では、展覧会の内容と連携したテーマを設定した。また、小中学校の学習指導要領に沿った内容にするなど学校が授業に活用できるよう工夫した。 ◇事業に関わりのある大学に、改めてキャンパス・パートナーシップ制度の内容について周知した。 ◇年間を通して教員対象の鑑賞研修を実施した（本庁連携事業1回、旭川美術館独自事業3回）。これまで管内対象としていたが、全国教員研修プラットフォームを活用し、道内全域の教員を対象とした。 ◇H20に北海道教育大学旭川校、上川旭川美術部連携協議会及び中原慎二郎記念旭川市彫刻美術館と連携し立ち上げた「旭川地域連携アートプロジェクト（AAP）」において、大学生をファンリテーターとした中学生の対話型鑑賞を実施した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値 (a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の判定	項目評価	総合評価		
			設定の考え方								
多様な機関との連携・協力	地域の団体やイベント等と連携した取組の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①	b	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 ・実行委員会を組むことによって、当館単独主催よりも規模の大きい展覧会と、手厚い広報を行うことができた。 ・展覧会テーマに関する機関との連携やTV番組への協力により、PR活動の幅を広げた。 ・ボランティアと協力し、喫茶や売店において事故なく運営することができた。 ・図書館との連携により、社会教育機関同士のネットワークを強化した。 【課題】 ・連携には持続性が望ましいが、反面、連携相手が固定化しがちである。また、単発の連携・協力から発展しない場合もある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【多様な機関との連携・協力】 ○道北地方の中核美術館として、関係機関からの相談や協力の求めに応じるとともに、アートギャラリー北海道を牽引する。 ○これまで実績のある相手、単発の連携・協力の相手いずれであっても、相互に実りが大きくなるよう工夫に努める。 【学校等の教育機関との連携・支援】 ○オンラインアート教室について、参加校とは教育目標を共有するなど、事前準備を協力し合いながら丁寧に行う。 ○キャンパス・パートナーシップのメンバー校獲得に向けて、本庁関係課と連携して取り組む。 ○引き続き、学校における美術教育活動の支援を行う。 ○展覧会ごとに教員を対象とした指導者研修を実施する。
	企業や団体等と連携したPR活動 [定性]	-	-	-	-	-	①				
	道内美術館等との連携・協力の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①				
	ボランティアとの連携・協力の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①				
学校等の教育機関との連携・支援	学校教育と連携した取組の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①	c	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 ・高校生にとって、発表したり年少者に教えたりする機会を得たのは有意義なことと考える。 ・オンラインアート教室への希望校が、昨年度2校から4校に増加。 ・教員を対象とする鑑賞研修に、管外から1名の参加を得た。 【課題】 ・オンラインアート教室参加校との間で、必要な事前準備について共有不足であった。 ・キャンパス・パートナーシップのメンバー校を得ることができなかった。 	B	
	児童生徒向け鑑賞教室（オンラインを含む）の実施件数	2件	2件	年間計画による	4件	200.0%	①				
	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	1校	1校	過去5年間の平均値	0校	0.0%	④				
	教員を対象とした研修の実施状況 [定性]	-	-	-	-	-	①				

R6年度 美術館評価調書

F 安全で快適な滞在環境の提供

旭川美術館

【基本的運営方針】

美術鑑賞にふさわしく落ち着いた文化的環境を維持・提供する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
施設の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ○日常点検や巡回などを行い、施設の状況を常に確認・把握する。 ○設備等の故障等が生じた場合、本庁担当課と速やかな修繕に向け協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇日常点検や巡回などを継続的に行うことで、施設・設備の不具合などを速やかに把握した。 ◇施設・設備の不具合（玄関スロープ・手すりの補修、空調設備部品の交換等）について、速やかに本庁担当課に報告・予算申請をし、適切に修繕を行った。
施設の快適性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○喫茶、ミュージアムショップを運営するボランティア団体と連携を密にし協力することで、質の高い利用者サービス提供する。 ○館内スタッフが来館者アンケートを共有するとともに、随時、反省会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ボランティア団体にも職員と同様にアンケート内容を共有するなど、より一層の利用者サービスの向上に努めた。 ◇来館者アンケートに記載された情報については、速やかに職員間で共有し改善等の対応をした。 ◇アンケート回収率増を目指し、用紙の配置工夫のほか、電子申請システムによる回答方式を導入した。 ◇展覧会閉会后、職員による反省会を実施し、次回以降の展覧会にアンケート意見を活かせるか検討した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価
			設定の考え方							
施設の適切な維持管理	施設の安全性確保のための必要な措置の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	[成果] ・来館者が安心して観覧できる環境を維持した。 [課題] ・老朽化による設備等の故障が頻発。	[施設の適切な維持管理] ○引き続き、日常の点検・管理を行うとともに、耐用年数を超えた設備の更新等について検討する。
	誰もが安心して利用できる施設設備の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①			
施設の快適性の向上	鑑賞環境に対する満足度	92.4%	97.6%	過去5年間の最高値	91.9%	94.2%	②	c	[成果] ・ボランティアと協力し、喫茶や売店において事故なく運営することができた。 ・アンケート回収率が前年度の1.7%から3.2%に上昇した。アンケートに基づいて、特別展の休憩スペースを1箇所から2箇所に増やした。 [課題] ・アンケート回収率が上昇したとはいえ、いまだ低いといわざるを得ない。	[施設の快適性の向上] ○引き続きボランティアと協力する。 ○アンケート回収率の向上に向けた工夫を検討する。 ○アンケートを活用してホスピタリティ向上を図る。
	レストラン・喫茶に対する満足度	61.5%	73.6%	過去5年間の最高値	72.7%	98.8%	②			
	ミュージアムショップに対する満足度	66.0%	79.0%	過去5年間の最高値	71.4%	90.4%	②			
	ボランティアや事業者と協力してのサービス向上に向けた取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	②			
	館内スタッフの対応に対する利用者満足度	89.9%	96.0%	過去5年間の最高値	89.1%	92.8%	②			
	ホスピタリティー向上に向けた取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	B		